

地域の**歴史**と調和の取れた**景観形成**に努め、
にぎわいのあるまちづくりを目指します。

遺跡でたどる
袋井のあゆみ



富士浅間宮の
田遊び



新屋常夜燈

近年、常夜燈の一部より、文久年間(1861~64)に建立され、数回の修理が行われたことを記した墨書が発見された。軒下の彫刻と、飾り瓦が特徴的。



富士浅間宮本殿(国指定重要文化財)



三間社流れ造り・檜皮葺。寛永十五(1638)年久野城主・北条氏重が現在の地へ移したと伝わる。



妙日寺

妙日尊儀・妙蓮尊儀供養塔(市指定文化財)。正保三(1646)年に建てられた、日蓮上人(日蓮宗の開祖・1222~82年)の両親・貴名重忠夫妻の供養塔。



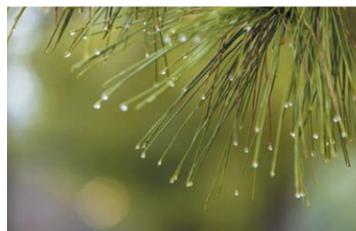
油山寺三重塔(国指定重要文化財)



総高23.884m。天正二(1574)年起工。久野城主・久野宗成の援助により慶長十六(1611)年完成。



Googleマップのストリートビューで、「富士浅間宮赤鳥居付近」の松並木の様子をご覧ください。



【協力】久努の松並木愛護会
【発行】袋井市役所

都市建設部都市計画課まちづくり計画室
教育部生涯学習課文化振興係
〒437-8666 静岡県袋井市新屋一丁目1番地の1

東海道

久努の松並木

第12回静岡県景観賞
最優秀賞受賞
(令和元年度)

静岡県袋井市

「久努・くど」とは、かつてこの地域が『先代旧時本紀』(平安時代初期ごろに成立したと考えられる歴史書)の『国造本紀』にみえる「久努国」であったことによる。その後、遠淡海国・久努国・素質国の3国が合併され、「遠江国」とされた。明治22年~昭和27年の山名郡の自治体名として、広岡・国本・周智郡村松の3か村が合併し「久努村」が成立した。

育て

松の枝打ちや剪定のほか、幼木を育てながら、補植を行い、未来の松並木の基礎づくりを行っています。



江戸時代の慶長九(一六〇四)年、宿駅制度が全国に整備される中、

東海道沿いにも松が植えられ、

人々の往來を助けたと言われています。



『行書版東海道 袋井』初代広重 袋井市歴史文化館所蔵

東海道「久努の松並木」は、袋井宿の東に、全長二七六〇mにわたり

見事な松が二〇〇本立ち並び、

近隣に点在する歴史資産とともに、

地域に豊かな潤いを与えています。



歴史的景観を地域ぐるみで受け継ぐ

袋井市東地区では、平成25年から松並木周辺の草刈り作業を継続的に実施する中で、地元有志の間で、歴史的資産である松並木について保存の気運が高まり、「保存検討会」を立ち上げました。地元説明会を行う中で、保存・継承の構想を練り、袋井東地区まちづくり協議会傘下の組織として、平成29年に「久努の松並木愛護会」を設立しました。会では、松並木の保存と近隣住民の環境保全を図ることを目的に、清掃・樹木管理・補植・計測・研修・講演会等の活動に取り組む一方、県・市・愛護会の三者締結によるアダプトロードプログラム協定による役割分担に基づき、官民一体の活動を継続しています。

地域の歴史を学ぶ講演会を開催。



定期的な計測と数値をデータベース化。



愛護会員を中心に、地元住民・小学生・事業所社員・市役所職員が参加し、地域全体で清掃活動を実施しています。

守り